

第4学年 総合的な学習の時間（防災学習）学習指導案

平成24年12月5日（水） 第5校時

児童数 4年1組 男子10名 女子13名 計23名

指導者 4年1組担任 吉本 幸司

1. 単元名 地区別の避難場所を考えよう

2. 単元について

本校4年生の総合的な学習の時間は、「ハートフル すさき つながる心」をテーマに地域の色々な方々と出会うことで自分たちの町のすばらしさに気付かせたいと考えている。そこで、地域の方々との交流学习を中心にしながら地域の方の思いを知り、自分たちにもできることはないかを考えさせていく学習を計画することになっている。

先の東日本大震災から、地震・津波の恐ろしさを目の当たりにし、須崎市においても、今後30年以内には起こるだろうと言われている南海大地震に備えることは喫緊の課題となっている。

本校は海から非常に近い場所にあり、津波による被害があると推測されている。『住みよい須崎の町』を考えた時に、いつ起こるか分からない災害に備え、自分たちの住んでいる町で安全な場所はどこなのか・危険箇所はどこかを調べ、避難防災マップの作成を行っていくことは、「住みよい町」づくりにつながる意義のある学習活動となると考える。そのためには、地震・津波の正しい知識を身につけ、危機意識を高めながら自ら適切な行動ができるよう、何が必要なのか、何ができるのかを常に意識させ、最終的には「自分の命を自分で守る」避難防災マイマップ作りへとつなげていきたいと考える。本単元では、クラス全体で確認しながら避難防災マップを作成していく。

本学年の児童は、先の東日本大震災が起こった時は、2年生であった。連日報道されていた震災の様子をテレビの画面から何度か見て津波の恐ろしさは感じ取っている。また、被災地からの転入生が一名いることもあり、震災の被害について身近に感じている児童もいる。これまでに何度か行った避難訓練では、真剣に行動する児童が多くいたが、先日行った突然の訓練では、避難経路を間違ったり指示を聞かずに飛び出したりするなどのアクシデントがあった。いつ何時起こるのか分からない地震にあわてず落ち着いて行動することや、一人でも行動できる力を身につけさせなければならない。

本時の学習では、社会科の時間に、「自分の命を自分で守る」ために、南海大地震の津波の高さ・速さ・強さなど視聴覚教材を活用して学習したことや、先日行った防災キャンプでの学習を思い出しながら、町の中の指定避難場所を確認していく。そして、地域のどこにいても安全な場所に逃げるのができるように、『○の場所にいたら、□の避難場所に逃げる。』など地図上に避難場所の色分けをする活動をグループで考えさせていき、全体では、必要な情報（地震によって通れなくなっている道もあるなど）を出し合いながら、精選し確認して行く。

3. 目標

- ・地域の避難場所や防災設備について調べ、住みよい町について考える。(推進の視点 A)
- ・災害から命を守る工夫について知り、安全な行動の仕方ができるようにする。(推進の視点 A)
- ・津波地震の簡単なメカニズムを知るとともに、地域の地理的特徴を理解する。(推進の視点 C)

4. 評価規準

関心・意欲・態度	学ぶ力・考える力	表現力
・自分たちの住む地域の特徴を捉え、安全な避難場所を考えようとしている。	・安全な避難方法を考えている。 ・災害時に起こる被害を予想しながら、避難時に気をつけることを考えている。	・地域の方から必要な情報を集め、グループで防災避難マップにまとめている。

5. 指導計画（全4時間、本時1／4）

時	学習活動	学習内容	評価（方法）
1 時 間 本 時	・安全な指定避難場所を考える。	・地域のどこにいても、安全に避難できるように、町全体の指定避難場所を確認していく。	・自分たちの住む地域の特徴を捉え、安全な指定避難場所を考えている。【関心・意欲・態度】（発言、行動観察）
1 時 間	・避難経路の危険な場所を確認する。	・個人で調べてきたことを発表し確認していく。	安全な避難方法を考えている。【学ぶ力・考える力】（ワークシート、発言）
1 時 間	・避難防災マップ作り（グループ）	・避難防災マップに調べたことをまとめる。	・必要な情報を集めたことを避難防災マップにまとめている。【表現力】（避難防災マップ）
1 時 間	・学習の振り返り	・安全に避難するために気をつけることは何かを考える。	・災害時に起こる被害を予想しながら、避難時に気をつけることを考えている。【学ぶ力・考える力】（発言、ワークシート）

6. 本時の指導

（1）目標

地域のどこにいても安全に避難できるように、指定避難場所を考える。

(2) 準備物

須崎市の地図（大判・グループ用の地図 6 枚）・ワークシート

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1. 指定避難場所を確認する。	・防災キャンプのことを思い出させる。 ・西・北・東の指定避難場所を確認する。	
どんな場所においても、安全にひなでできる場所をさがそう。		
2. どんな場所においても安全に避難できるように、地域の地図に色分けしながら考える。 (グループ活動) ※指定避難場所の範囲を色分けする。 ①自分の家の近くを中心に考える。 ②他の地区を考える。	・グループに須崎市の地図を配付し、具体的に考えられるようにする。 ・『○の場所にいたら、□の避難場所に逃げる。』などを考えながら、指定避難場所へ行く範囲を色分けしていく。 ・道路が広く、建物が倒れていても通れる道など、逃げやすい道を理由として考えるように声掛けをしていく。	・自分たちの住む地域の特徴を捉え、安全な指定避難場所を考えている。【関心・意欲・態度】(発言、行動観察)
3. グループで考えた地図を見合いながら、色分けの理由を報告し、確認しあっていく。	・避難場所を選んだ理由を聞きながら、安全な場所なのかを確認し合う。	
4. 次時への課題を持たせる。 ・一人ひとりが『避難キーワード』を考える。 (ワークシート)	・「自分の命は自分で守る」ための心構えと、自分のためになる学習を今後も心がけていけるように、キーワードを一人ひとりに考えさせる。 (予想されるキーワード) ○ゆれがおさまってから行動 ○落ち着いて行動 ○高台へGO ○頭をまもる	